



ドルビープロロジック IIx/バーチャルドルビーサラウンドデコーダ

■ 概要

NJU26206は、マトリクスエンコード(Lt/Rt)されたPCM信号や、通常のステレオPCM信号をDolby Pro Logic IIx処理により、最大7.1チャンネルの信号に変換します。多チャンネルにデコードされた信号は、Dolby社が開発したバーチャル技術により、2チャンネルのバーチャルサラウンドとして出力することもできます。さらに、マルチチャンネル入力、5-Band PEQ、リップシンク機能、Bass Management機能を搭載し、セットのコンフィギュレーションを容易にします。

NJU26206のアプリケーションは、カーオーディオといったマルチチャンネル製品や、液晶/プラズマTVといった2チャンネルの装置にも最適です。

■ 外形



NJU26206V

■ 特徴

◆ ソフトウェア

- Dolby Pro Logic II
- Dolby ProLogic IIx (最大 7.1ch 出力)
- Virtual Dolby Surround (Dolby 社アルゴリズム)
- Bass Management
- 7バンドパラメトリックイコライザ
- リップシンク機能 (デジタルオーディオディレイ)
- サンプル周波数
 - ・32kHz/44.1kHz/48kHz 対応 (ただし、NJU26206 マスターモード時 44.1kHz 対応した MCK は発生できません。)

◆ ハードウェア

- 24bit 固定小数点デジタルシグナルプロセッサ
- 外部クロック周波数 : 12.288MHz, PLL を内蔵
- デジタルオーディオインターフェース : 入力 4 ポート/出力 4 ポート
- デジタルオーディオフォーマット : I²S 24bit、左詰め/右詰め対応、BCK : 32fs/64fs
- マスター/スレーブ対応
 - ・マスター時、MCK: 256fs @fs=48kHz / 384fs @fs=32kHz
- ホストインターフェース
 - ・I²C バスインターフェース (Fast-mode/ 400kbps)
 - ・シリアルインターフェース (4 線式: クロック、スレーブセレクト、入力データ、出力データ)
- 電源電圧 : V_{DD} = V_{DDPLL} = 1.8V
: V_{DDIO} = 3.3V
- 入力専用端子許容電圧 : 5V トレラント
- パッケージ : SSOP44 (鉛フリー対応)

* ハードウェア仕様の詳細については「NJU26200 シリーズハードウェア共通仕様書」を参照願います。

■ NJU26206 ブロック図

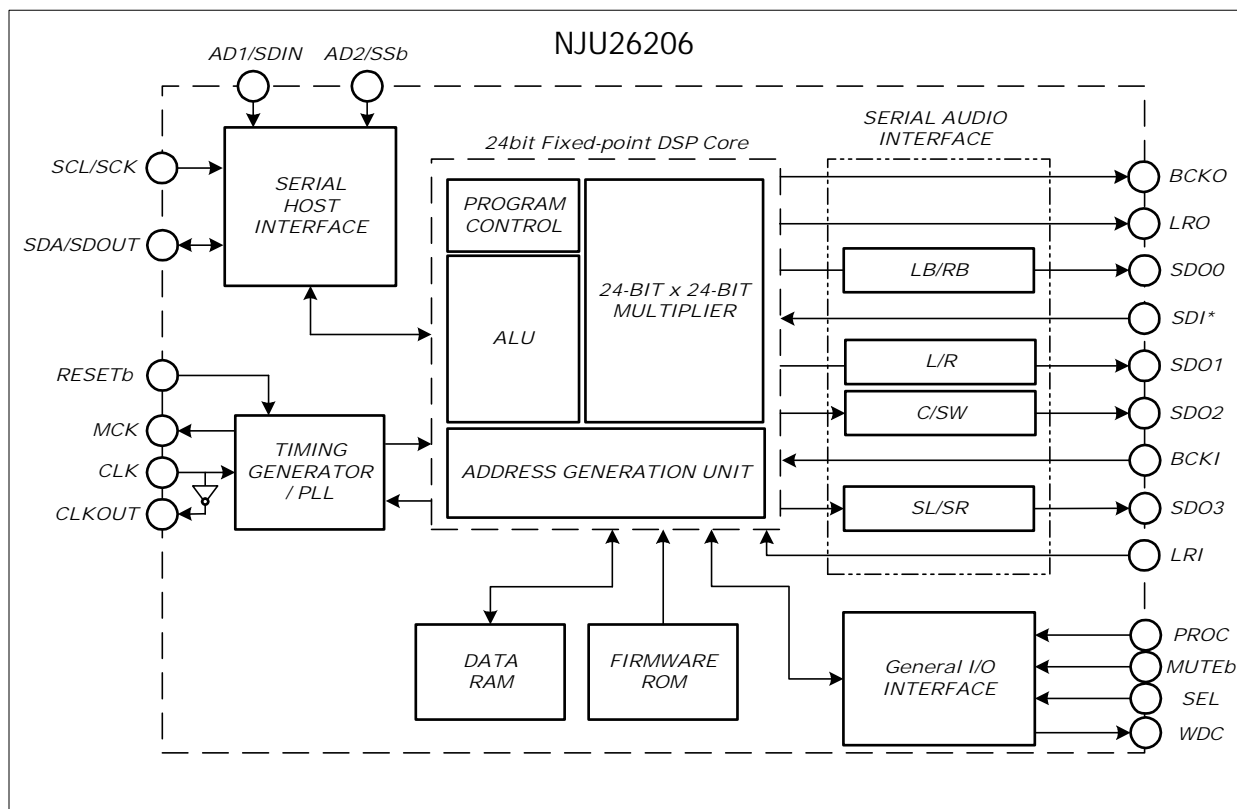


図 1 NJU26206 ブロック図

■ 機能ブロック

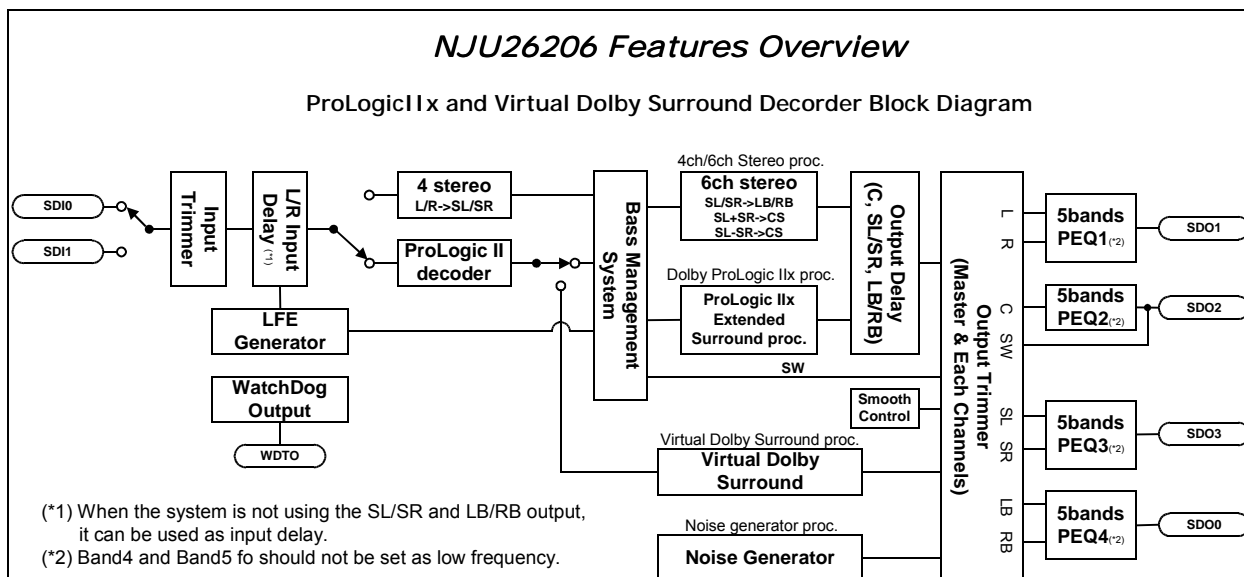


図 2 NJU26206 機能ブロック図

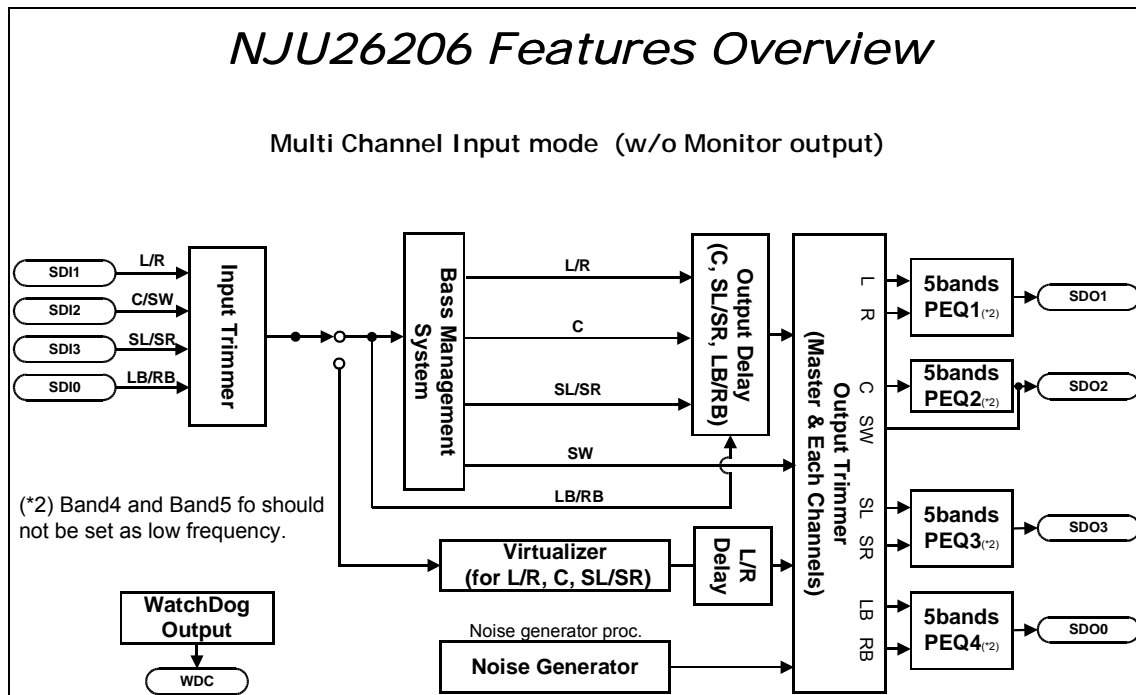


図 3 NJU26206 機能ブロック図 (マルチチャンネル入力、モニター出力無し)

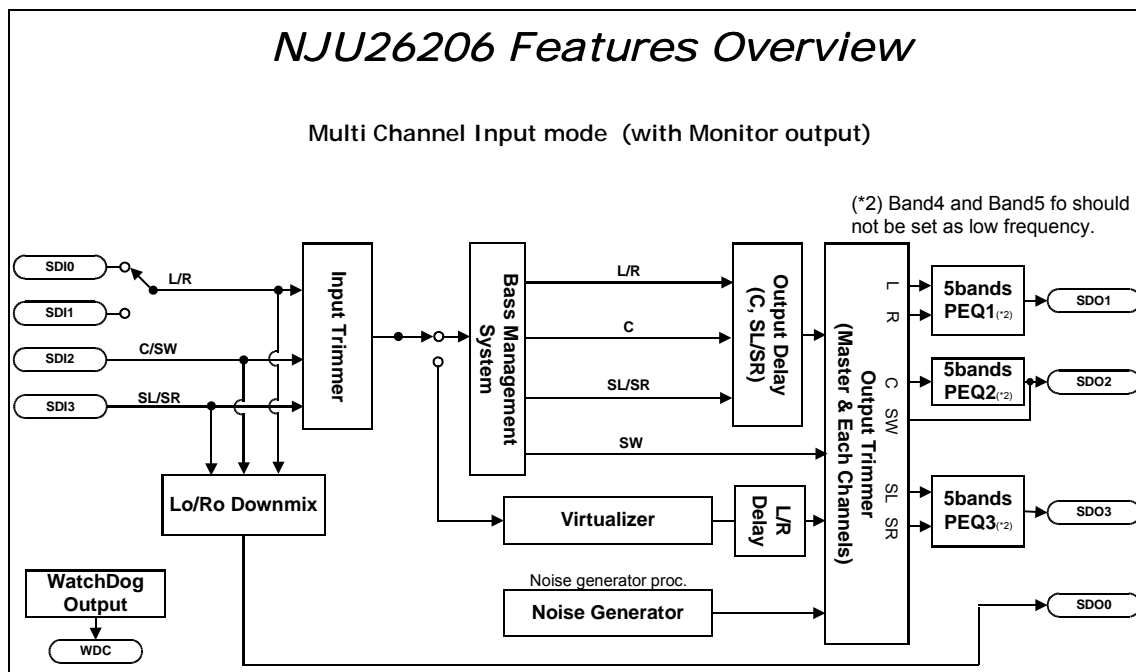


図 4 NJU26206 機能ブロック図 (マルチチャンネル入力、モニター出力有り)

■ 端子配列 (SSOP44)

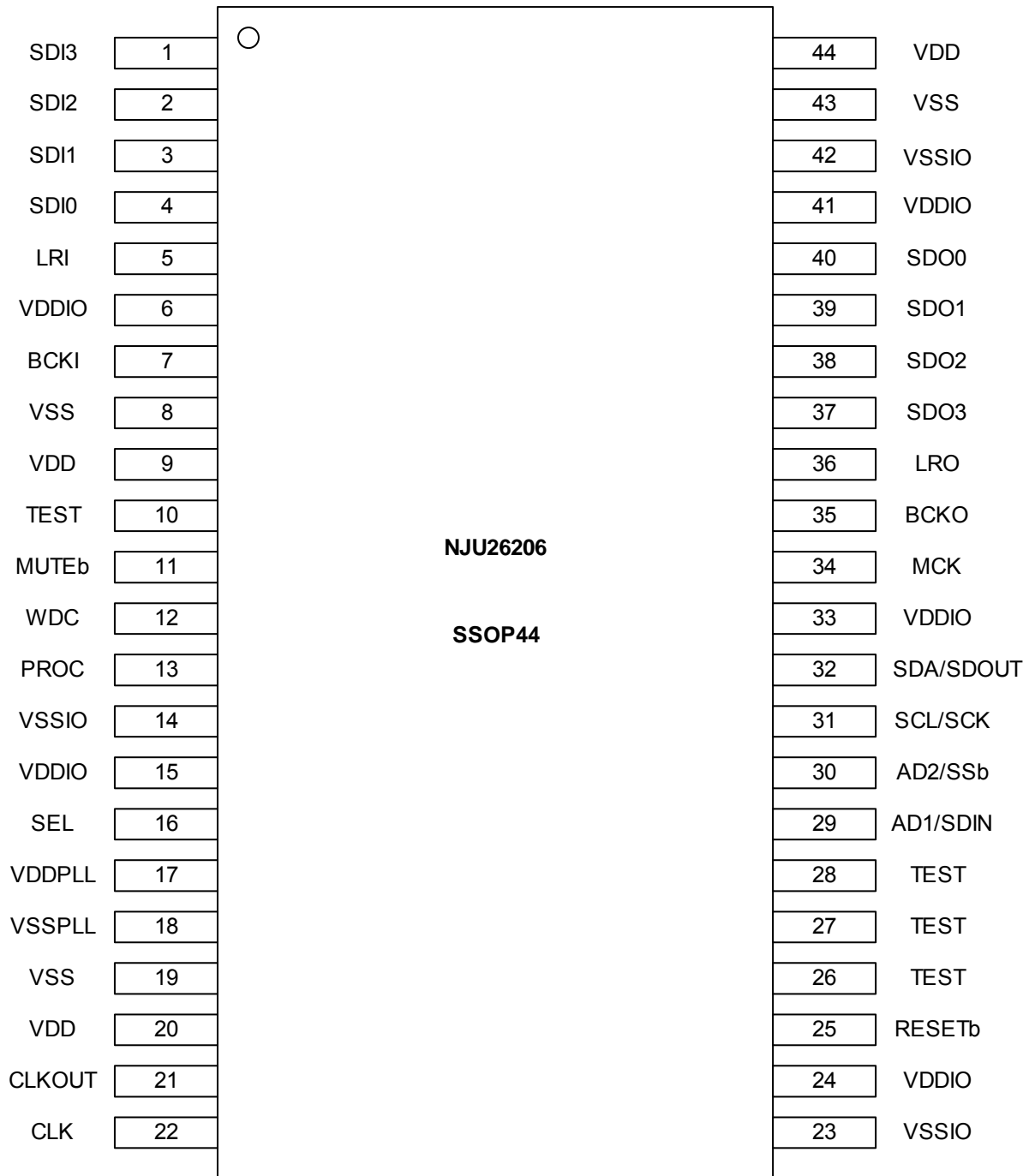


图 5 端子配列

■ 端子説明

表 1 端子説明

Pin No. SSOP44	端子名	I/O	機能
6, 15, 24, 33, 41	VDDIO	—	I/O 電源 +3.3V
7	BCKI	I	ビットクロック入力
14, 23, 42	VSSIO	—	I/O 電源 GND
8, 19, 43	VSS	—	内部電源 GND
9, 20, 44	VDD	—	内部電源 +1.8V
10	TEST	I	テスト端子 (必ず 3.3kΩ の抵抗を介して VSSIO に接続してください)
11	MUTEb *	I	リセット後のマスタボリューム状態 ("1" : 0dB, "0" : ミュート)
12	WDC *	OD	ウォッチドッグタイマ用クロック出力端子 (オープンドレイン出力)
13	PROC *	I	リセット後の信号処理 ("1" : 通常処理する, "0" : 処理しないでコマンド待ち)
16	SEL	I	ホストインターフェース選択 ("1" : シリアル(4 線式), "0" : I ² C バス)
17	VDDPLL	—	PLL 電源 +1.8V
18	VSSPLL	—	PLL 電源 GND
21	CLKOUT	O	水晶発振用クロック出力端子
22	CLK	I	水晶発振用クロック入力端子 (12.288MHz)
25	RESETb	I	リセット (RESETb="0" でリセット)
26	TEST	I	テスト端子 (必ず VDDIO に接続してください)
27, 28	TEST	I	テスト端子 (必ず VSSIO に接続してください)
29	AD1/SDIN	I	I ² C アドレス選択 1 / シリアル(4 線式)データ入力
30	AD2/SSb	I	I ² C アドレス選択 2 / シリアル(4 線式)スレーブ選択
31	SCL/SCK	I	シリアルクロック / シリアル(4 線式)クロック
32	SDA/SDOUT	I/O	I ² C データ入出力 / シリアルデータ出力(シリアル 4 線式) ・I ² C バス時、オープンドレイン出力のため、プルアップ抵抗を接続してください。 ・シリアル 4 線式時、CMOS 出力のため、プルアップ抵抗を接続する必要ありません。
34	MCK	O	マスタークロック出力 (CLK 端子のバッファ出力)
35	BCKO	O	ビットクロック出力
36	LRO	O	LR クロック出力
37	SDO3	O	オーディオデータ出力 3 (SL/SR)
38	SDO2	O	オーディオデータ出力 2 (C/SW)
39	SDO1	O	オーディオデータ出力 1 (L/R)
40	SDO0	O	オーディオデータ出力 1 (LB/RB)
1	SDI3	I	オーディオデータ入力 3
2	SDI2	I	オーディオデータ入力 2
3	SDI1	I	オーディオデータ入力 1
4	SDI0	I	オーディオデータ入力 0
5	LRI	I	LR クロック入力

I : 入力

O : 出力

OD : オープンドレイン出力

I/O : 双方向

端子名に * が付いている端子は、必ず抵抗 (推奨 3.3kΩ) を介して VDDIO または VSSIO に接続してください。

■ デジタルオーディオインターフェース

デジタルオーディオフォーマットは、I²S、MSB ファースト左詰め、及び MSB ファースト右詰りをサポートしています。NJU26206 は、4 ポートのオーディオデータ入力端子(SDI0~3)と、4 ポートのオーディオデータ出力端子(SDO0~3)を備えています。入出力信号の割り当ては表 2、表 3 及び図 2、図 3、図 4 機能ブロック図を参照してください。

表 2 オーディオデータ入力端子

Pin No.	端子名	機能			
		ステレオ入力モード (Pro Logic II/IIX, 4/6 Stereo)		マルチチャンネル入力モード	
SSOP44		モニター出力有	モニター出力無	モニター出力有	モニター出力無
4	SDI0	ステレオ L/R	ステレオ L/R	L/R	LB/RB
3	SDI1	(端子選択可能)	(端子選択可能)	(端子選択可能)	L/R
2	SDI2	未使用	未使用	C/SW	C/SW
1	SDI3			SL/SR	SL/SR

表 3 オーディオデータ出力端子

Pin No.	端子名	機能			
		ステレオ入力モード (Pro Logic II/IIX, 4/6 Stereo)		マルチチャンネル入力モード	
SSOP44		モニター出力有	モニター出力無	モニター出力有	モニター出力無
40	SDO0	モニター出力 A	LB/RB	モニター出力 B	LB/RB
39	SDO1	L/R	L/R	L/R	L/R
38	SDO2	C/SW	C/SW	C/SW	C/SW
37	SDO3	SL/SR	SL/SR	SL/SR	SL/SR

Note: L/R フロント

LB/RB..... バックサラウンド

C/SW..... センター/サブウーファー

SL/SR..... サラウンド

モニター出力 A...ステレオ L/R 信号のスルー出力

モニター出力 B...L/R, C, SL/SR 信号の Downmix 出力(Lo/Ro)

- ・Dolby Pro Logic II / Virtual Dolby Surround の動作モードにより、出力されないチャンネルがあります。
- ・マルチチャンネル入力モードは、Dolby Digital EX デコーダとして動作させることを想定していません。
- ・マルチチャンネル入力モードにおいて、**バーチャライザーを使用する場合**、使用するセットの ProLogicII/IIX の使用如何に関らず、**ドルビーラボラトリーズの許可を受ける必要があります。**

■ ホストインターフェース

NJU26206 の制御インターフェースは、I²C バスインターフェース、あるいは、シリアルインターフェース(4 線式) です。I²C バスインターフェースで制御する場合、リセット解除時、SEL 端子を”L”に設定し、シリアルインターフェース(4 線式)で制御する場合、リセット解除時、SEL 端子を”H”に設定します。(表 4)

ホストインターフェース端子機能は、表 5 の通りです。

データ転送は共に 8 ビット(1 バイト)単位です。ホストインターフェースは常にスレーブで、ホストコントローラからクロック(SCL/SCK)に同期してデータが転送されます。

表 4 ホストインターフェース設定

Pin No.	端子名	設定	ホストインターフェース
SSOP44			
16	SEL	L (※)	I ² C バスインターフェース
		H (※)	シリアルインターフェース(4 線式)

※ リセット解除時に設定します。

表 5 ホストインターフェース端子機能

Pin No.	端子名 (I ² C /Serial)	I ² C バスインターフェース 選択時	シリアルインターフェース (4 線式)選択時
SSOP44			
29	AD1/SDIN	I ² C アドレス選択 Bit1	シリアルデータ入力
30	AD2/SSb	I ² C アドレス選択 Bit2	スレーブセレクト
31	SCL/SCK	シリアルクロック	シリアルクロック
32	SDA/SDOUT	シリアルデータ入出力 (オープンドレイン出力)	シリアルデータ出力 (CMOS 出力)

注意: SDA/SDOUT 端子は、

I²C バスインターフェース選択時: オープンドレイン出力となります。適切なプルアップ抵抗を接続してください。

シリアルインターフェース(4 線式)選択時: CMOS 出力となります。プルアップ抵抗は必要ありません。

また、SDA/SDOUT 端子は、5Vトレラントではないため、電圧レベルに注意してください。(最大で VDDIO まで)

SCL/SCK 端子は、5Vトレラントです。I²C バスインターフェース時は SCL/SDA 端子のプルアップ電圧を SDA 側に統一してください。

■ I²C バスインターフェース

I²C バスインターフェースでは、データを SDA 端子に、クロックを SCL 端子に転送します。SDA 端子はオープンドレイン構造で、外部にプルアップ抵抗が必要です。AD1,AD2 端子は、7ビットからなるスレーブアドレスの下位 2ビットの設定に用います。アドレスは、表 6 に示す固定値と AD1/AD2 端子により、4 種類設定できます。

表 6 I²C バスインターフェーススレーブアドレス設定

bit7	bit6	固定値			AD2 端子 bit2	AD1 端子 bit1	R/W bit0
bit7	bit6	bit5	bit4	bit3	AD2 端子 bit2	AD1 端子 bit1	R/W bit0
0	0	1	1	1	0	0	R/W
0	0	1	1	1	0	1	
0	0	1	1	1	1	0	
0	0	1	1	1	1	1	



※ AD1 端子、AD2 端子において“0”=”L”、“1”=”H”

I²C バスインターフェースのタイミング等、詳細については、「NJU26200 シリーズハードウェア共通仕様書」を参照してください。

注意:I²C バスは、“Standard-Mode” (100kbps) および “Fast-Mode” (400kbps) をサポートします。また、S(「START」条件)を送った後、Sr(反復「START」条件)を受け付けず、P:「STOP」条件待ちになります。そのため、必ず P:「STOP」条件を送ってください。

■ シリアルインターフェース(4 線式)

シリアルインターフェース(4 線式)回路は、スレーブセレクト端子(SSb 端子)が”L”レベルで動作状態となります。SDIN 端子に入力されるデータは、SCK 端子の立ち上がりに同期して DSP に読み込まれます。SDOUT 端子からのデータは、SSb 端子の立ち下がりに同期して bit7 が出力され、次に SCK 端子の立ち下りに同期して bit6, bit5, bit4, bit3, bit2, bit1, bit0 が出力されます。入出力共に MSB ファーストで通信されます。(図 6) 通信は 8bit 単位です。8bit に満たなかった場合や 8bit を超えた場合は、正しく動作しません。SDOUT 端子は、常時 CMOS 出力のため、プルアップ抵抗は必要ありません。また、SSb='H'時に SDOUT 端子に現れる値は不定となります。

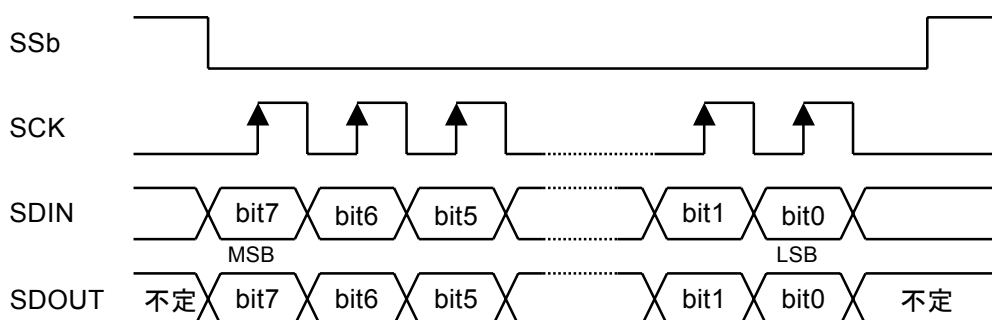


図 6 シリアルインターフェース(4 線式)タイミング

シリアルインターフェース(4 線式)のタイミング等、詳細については、「NJU26200 シリーズハードウェア共通仕様書」を参照してください。

■ 端子設定

NJU26206 はリセット解除後の動作を PROC、MUTEb 端子により設定することができます。(表 7)
 PROC、MUTEb 端子は、抵抗(推奨 3.3kΩ)を介して VDDIO または VSSIO に接続してください。

表 7 機能設定ピン

Pin No. SSOP44	端子名	設定	機能
13	PROC	H (※)	リセット解除後、デフォルト設定に従って信号処理を行います。
		L (※)	リセット解除後、信号処理を行いません。信号処理の開始には、専用のスタートコマンドを送信する必要があります。
11	MUTEb	H (※)	リセット解除後、マスターボリュームを 0dB に設定します。
		L ()	リセット解除後、マスターボリュームをミュートに設定します。

リセット解除時に設定します。

■ ウォッチドッグクロック出力端子

NJU26206 は、Watch Dog クロック出力端子(WDC)を持っています。音声信号処理の過程で、一定の間隔で WDC 端子をトグルすることにより、外部にファームウェアが動作していることを通知します。この出力と外部 Watch Dog 監視 IC やマイコン等の端子でモニタすることで、異常状態を検出することができます。WDC 端子からの出力トグル周期は、約 10ms~640ms の範囲で設定可能です。初期設定は、約 200ms に設定されています。

WDC 端子は、オープンドレイン出力となっているため、表 8 のように設定してください。

表 8 WDC ピン設定

Pin No. SSOP44	端子名	設定	
12	WDC	WDC 使用する場合	抵抗(推奨 3.3kΩ)を介して V _{DDIO} に接続してください。
		WDC 使用しない場合	抵抗(推奨 3.3kΩ)を介して V _{SSIO} に接続してください。 (端子をフローティング状態にしないでください)

注意:

- ・WDC 端子出力は、音声処理の過程に挿入されており、周期は正確ではありません。
- ・スレーブモードにおいて、BCKI/LRI の入力が無い場合には出力できません。
- ・サンプリングレートを正しく設定することが必要です。

■ NJU26206 コマンド一覧

表 9 NJU26206 コマンド表

No.	機 能
1	SET_TASK_CMD
2	PRO2MODE_CMD
3	PRO2CDCFG_CMD
4	PRO2FLAGS_CMD
5	VIRTUAL_CMD
6	BM_CFG_CMD
7	SAMPLERATE_CMD
8	PNG_MODE_CMD
9	DELAY_CMD
10	GAIN_CMD
11	SYSTEM_STATE_CMD
12	WATCHDOG_CMD
13	SMOOTH_CMD
14	PEQ_SEL_CMD
15	PEQ_CFG_CMD
16	BM_EXTEND_CMD
17	REINIT_CMD
18	MON_OUT_DISABLE_CMD
19	MON_OUT_ENABLE_CMD
20	START_CMD
21	NOP_CMD

コマンドの詳細については別途、ご請求下さい。

また、コマンド開示するにはドルビーラボラトリーズの許可が必要となります。

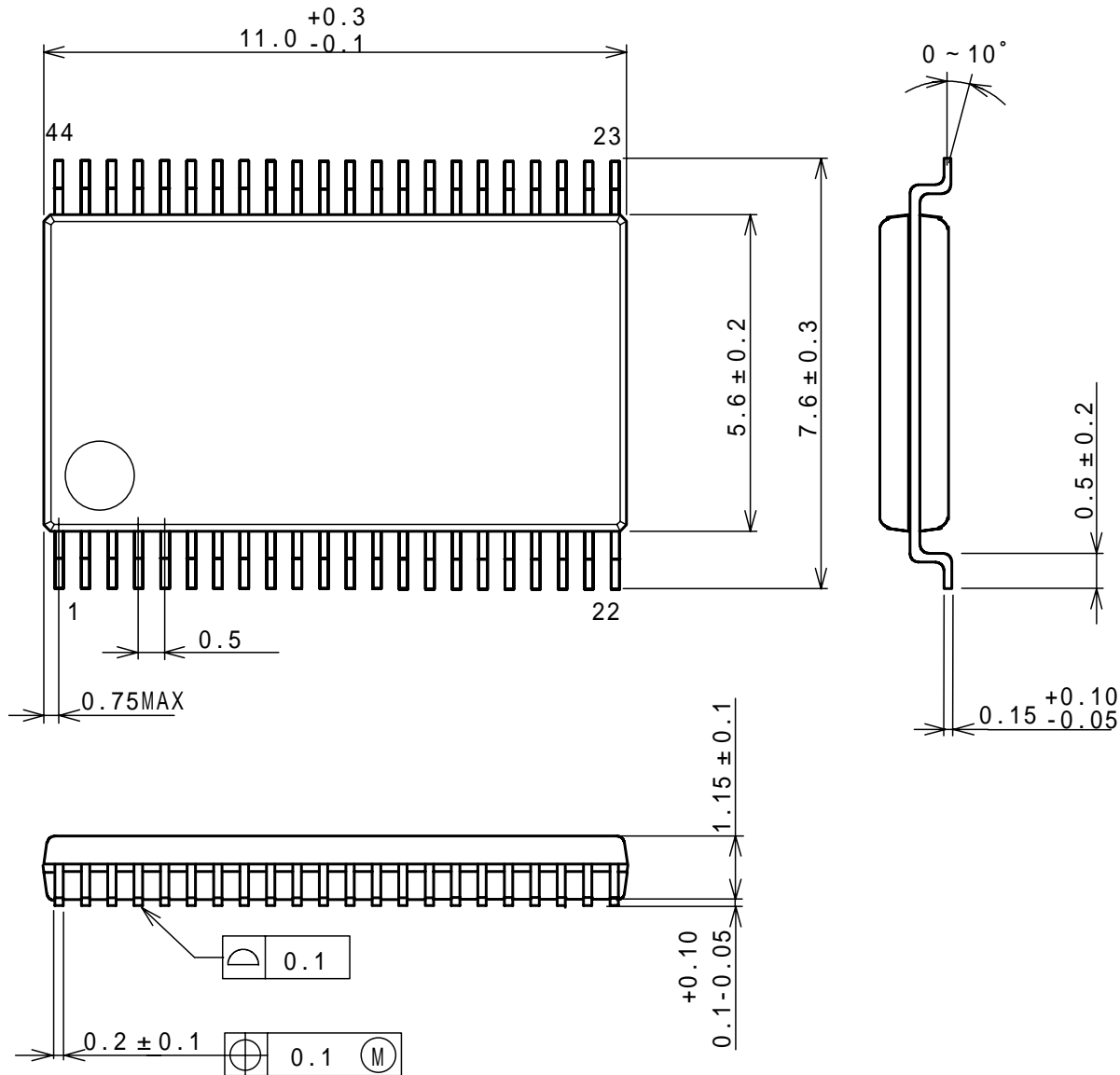
■ ライセンスについて

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号(2)はドルビーラボラトリーズの商標です。

NJU26206の使用にあたっては、ドルビーラボラトリーズ発行のライセンスインフォメーションを御参照ください。

■ パッケージ寸法 (SSOP44、鉛フリー)



端子処理: SnBi メッキ

<注意事項>
 このデータブックの掲載内容の正確さには万全を期しておりますが、掲載内容について何らかの法的な保証を行うものではありません。とくに応用回路については、製品の代表的な応用例を説明するためのものです。また、工業所有権その他の権利の実施権の許諾を伴うものではなく、第三者の権利を侵害しないことを保証するものでもありません。